

品名： **グリップヒータセット**

品番： 57100-2781*

適合機種： UB125L M3-

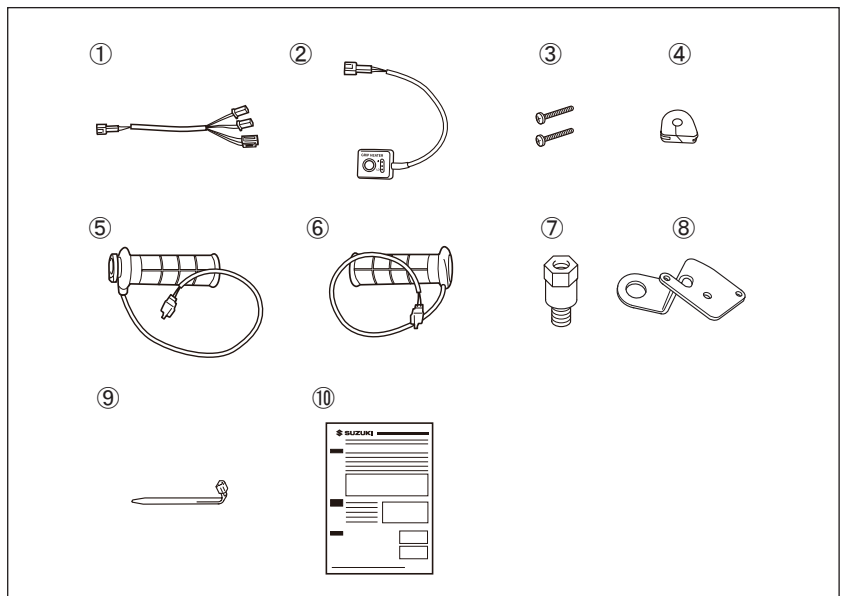
取付時間： 1.2 H

スズキ純正用品をお買いあげいただきありがとうございます。

本書は用品の取付け方法及び取扱の方法を説明しています。取付けの前に必ずお読みいただき、正しく取り付けてください。取付後、本書を必ずお客様にお渡ししてください。

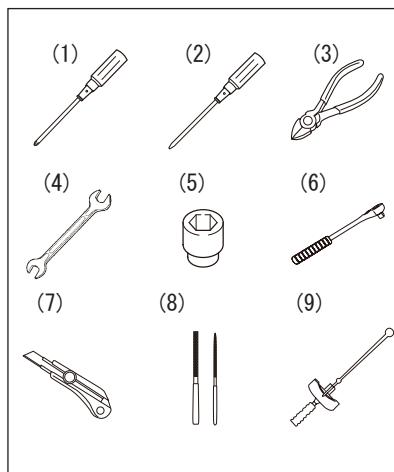
構成部品

No	品名	数量
①	グリップヒータリードワイヤ	1
②	グリップヒータスイッチ	1
③	スクリュー	2
④	クッション	1
⑤	右グリップヒータ	1
⑥	左グリップヒータ	1
⑦	ボルト	1
⑧	スイッチブラケット	1
⑨	クランプ	1
⑩	取付け / 取扱説明書（本書）	1

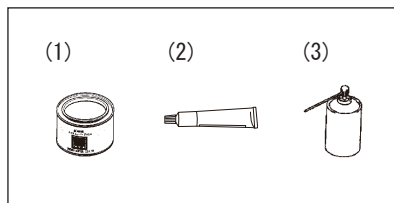


必要工具

No	必要工具
(1)	⊕ ドライバ
(2)	⊖ ドライバ
(3)	ニッパ
(4)	スパナ (14 mm)
(5)	ソケット (14 mm)
(6)	ラチェットハンドル
(7)	カッター
(8)	ヤスリ
(9)	トルクレンチ


 必要部品
 (別途用意
 ください)

No	必要部品
(1)	エクスタースーパーグリス A (推奨品 : 99000-25480)
(2)	ボンド (推奨品 : THREEBOND 1530P)
(3)	脱脂洗浄剤



**注意書き
について**

本書の中で使用されている記号 **⚠ 警告**、**⚠ 注意**、**注記**、**アドバイス** については、とくにしっかりお読みください。

⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。

⚠ 注意

取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。

注記

取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。⇒ ⓘ

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。⇒ ⓘ

**取り付けに
際しての
注意事項**
⚠ 警告

- ・ お客様ご自身で取付ける場合は、ご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。
- ・ 平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。
- ・ エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- ・ 取付けを行うときは火気を近づけないでください。

ⓘ

- ・ 取付けはエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- ・ バッテリ⊖端子をバッテリーから外してください。
- ・ 適切な工具を使用してください。
- ・ 本書に記載の取付位置以外の場所、または取付方法以外の方法で取付けた場合は、取付作業者の責任となります。
- ・ 適用機種以外には使用しないでください。適用機種以外に取付けられたものについては取付作業者の責任となります。

締付トルク とくに指示のない箇所は、右記を目安に締付けてください。

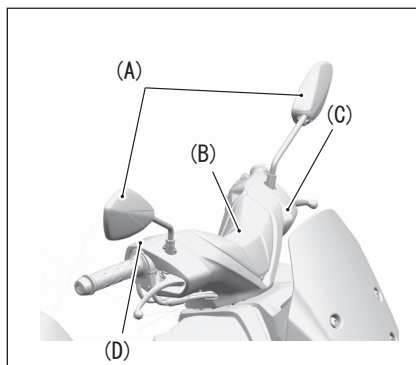
ネジ径 mm	締付トルク		
	N·m	kgf·m	lbf·ft
5	3.0	0.3	2.0
6	5.5	0.55	4.0
8	13.0	1.3	9.5
10	29.0	2.9	21.0



車両部品の脱着はUB125Lのサービスマニュアルを必ず参照し、正しく行って下さい。

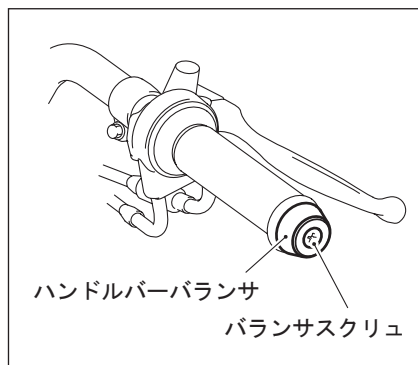
取付方法 車両部品の取外し

1. 左右リヤビューミラー (A)、アッパハンドルカバー (B)、フロントハンドルカバー (C)、リヤハンドルカバー (D) を取り外します。

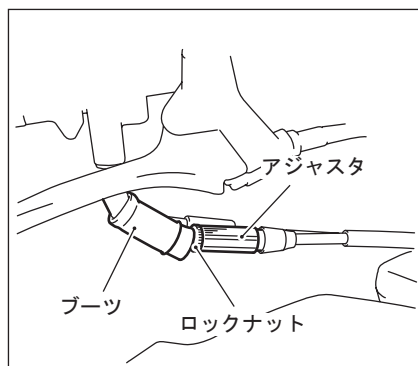


右グリップヒータの取付け

1. バランサスクリユを外し、ハンドルバーバランサを取り外します。



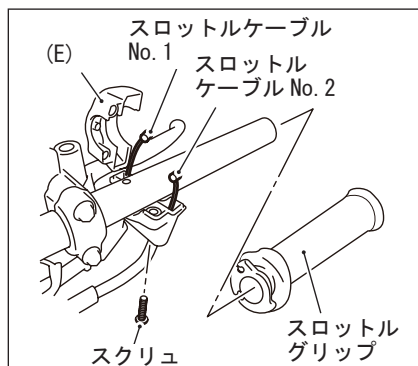
2. ブーツをずらし、スロットルケーブルのロックナットを緩めて、アジャスタを一杯まで締め込み、スロットルケーブルを緩めます。



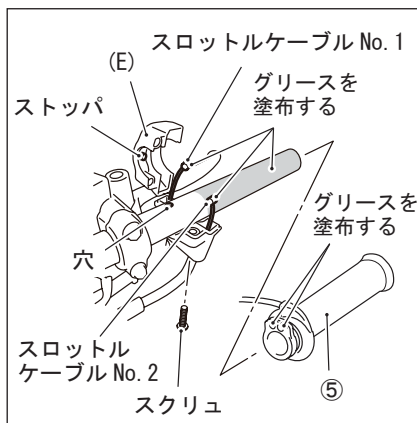
3. スロットルケーススクリユを外し、アップスロットルケース (E) を取り外します。最初にスロットルケーブル No. 2、次に No. 1 の順で取り外し、スロットルグリップを取り外します。

 スロットルグリップは再使用しません。

 スロットルケーブル No. 1 および No. 2 は、プライヤ等で無理に外さないでください。スロットルの動作不良の原因となります。



4. ハンドルバーにグリスを塗布します。
5. スロットルケーブルおよびケーブルプーリにグリスを塗布します。
(推奨品：
エクスタースーパーグリス A)
6. 右グリップヒータ⑤をハンドルバーに差し込み、最初にスロットルケーブル No. 1、次に No. 2 の順で取り付けます。



スロットルケーブル No. 1 および No. 2 は、ケーブルエンドの根元で曲げないようにして取り付けてください。

7. アップスロットルケース (E) のストッパとハンドルバーの位置決め穴を嵌め合わせ、スロットルケーススクリュを規定トルクで締め付けます。



スクリュ : 1.5 N·m

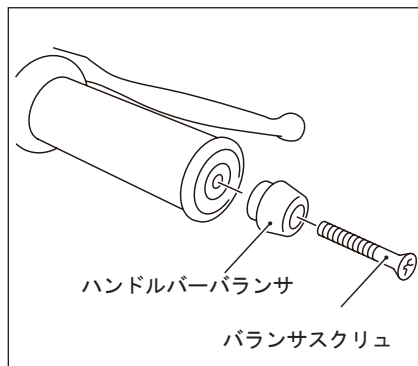
(0.15 kgf-m)



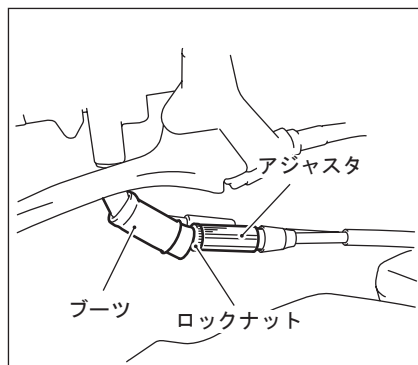
締め付け後、スイッチボックスにがたがないか確認してください。

8. 手順1で取り外したハンドルバーバランスおよびバランススクリュを取り付け、規定トルクで締め付けます。

 スクリュ : 5.5 N・m
(0.55 kgf-m)

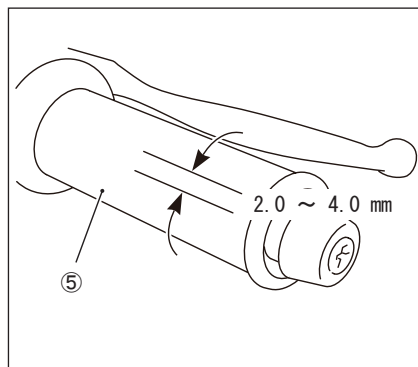


9. 次の手順でスロットルケーブルの遊び調整をします。
- 1) ロックナットを緩めます。
 - 2) アジャスタを回してスロットルグリップの遊び量を 2.0 ~ 4.0mm の範囲内に調整します。
 - 3) ロックナットを締め付けます。
 - 4) ブーツを取り付けます。



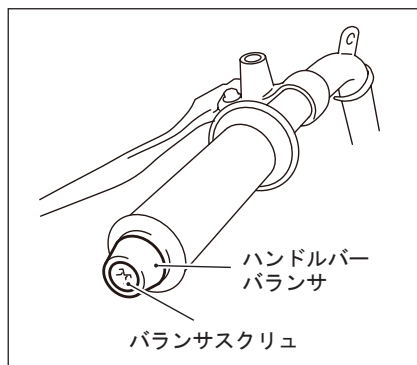
 警告

スロットルの開閉操作に引っ掛かり等がないか確認してください。

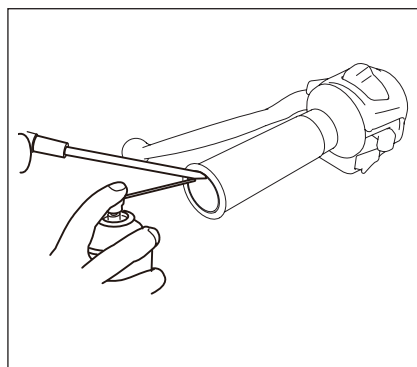


左グリップヒータの取付け

1. バランサスクリュを外し、ハンドルバーバランサを取り外します。



2. 左ハンドルグリップとハンドルバーの間に⊖ドライバを入れて隙間をもうけ、その隙間に脱脂洗浄剤を注入し、ボンドを分離させて、左側ハンドルグリップを引き抜きます。

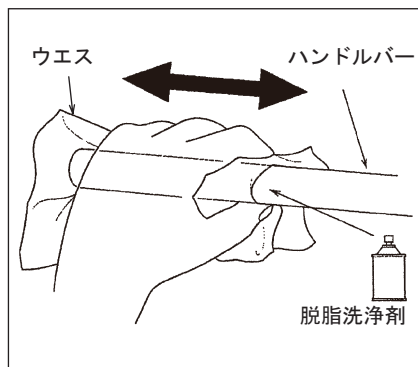


ハンドルバーの表面に傷がつかないように慎重に⊖ドライバを使用してください。

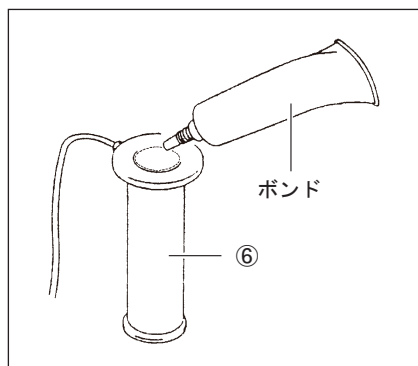


左ハンドルグリップは再使用しません。

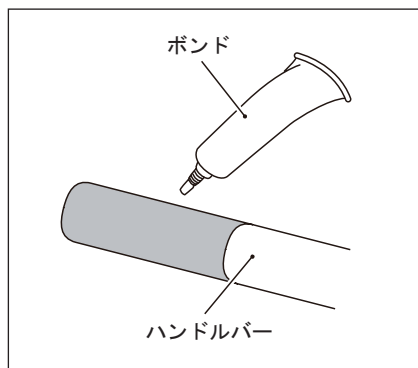
3. ハンドルバーに付着したボンドカスを脱脂洗浄剤とウエスを使用して取り除きます。



4. 左グリップヒータ⑥内面にボンドを均一に多めに塗布します。
(推奨品: THREEBOND 1530P)

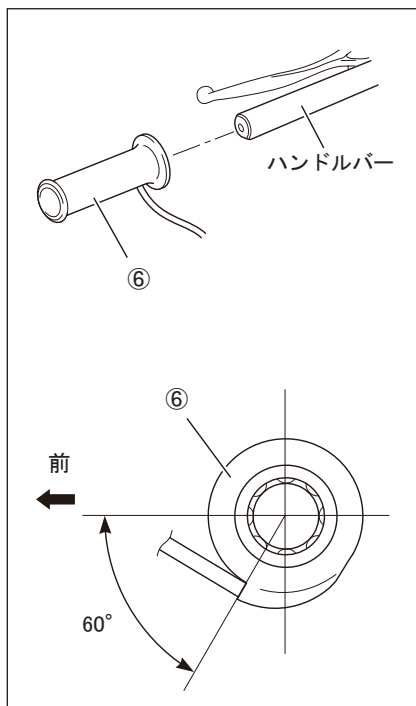


5. ハンドルバーの外周面にボンドを塗布します。
(推奨品: THREEBOND 1530P)

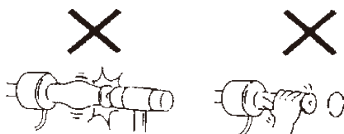


ハンドルバー端面にボンドが付着した場合、乾かないうちにウエス等で拭き取ってください。

6. ボンドが乾かないうちに一気に左グリップヒータ⑥をハンドルバーにはめ込み、イラストの角度で取り付けてください。



- 途中で止めないで、一気にはめ込んでください。
- 挿入する際、「グリップエンドをハンマでたたく」、「グリップを強くねじる」等は行わないでください。グリップヒータが切断するおそれがあります。



- 途中で入らなくなった場合は、グリップヒータとハンドルバーの隙間に脱脂洗浄剤を入れて取り外してください。この時、無理に配線をドライバ等でこじらないでください。グリップヒータ内で断線するおそれがあります。

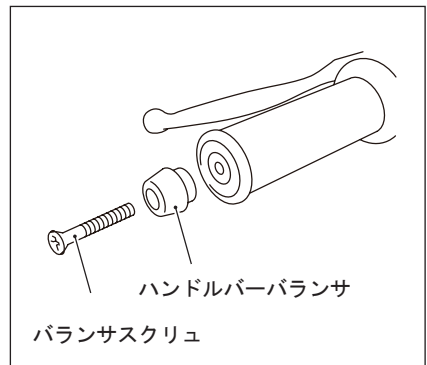
⚠ 警告

適切なボンドで十分な時間養生し、確実に接着するまで 24 時間左グリップヒータに触らないでください。また十分に接着するまでヒータの使用はお控えください。

接着が不十分な場合、走行中にグリップヒータが外れるおそれがあります。レバー、ハンドルの据え切りなど各種操作時に、配線の張りや他部品との接触の他、操作に引っ掛かり等がないか確認してください。

7. 手順 1. で取り外したハンドルバーバランス、バランススクリュを取り付け、規定トルクで締め付けます。

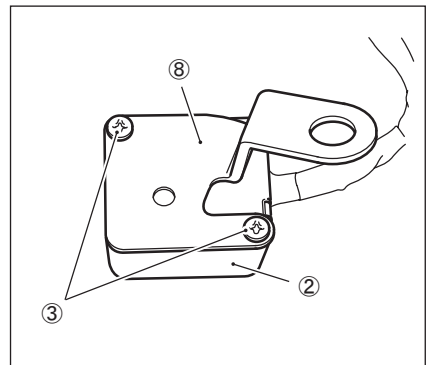
 スクリュ : 5.5 N・m
(0.55 kgf-m)



グリップヒータスイッチの取付け

1. 図の様にグリップヒータスイッチ②をスイッチブラケット⑧に取り付け、スクリュ③で締め付けます。

 スクリュ③ : 0.4 N・m
(0.04 kgf-m)

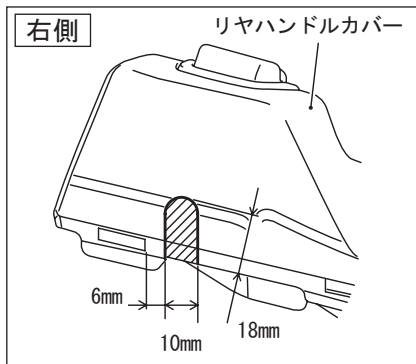


リヤハンドルカバーの切り取り

1. リヤハンドルカバーの斜線部分を切り落とします。

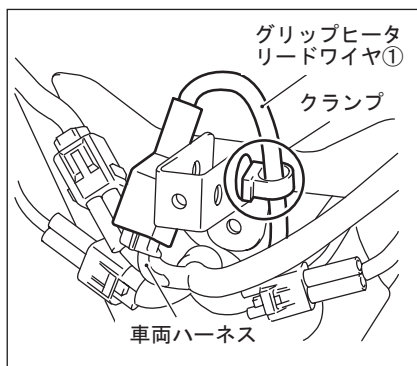


切り落とした部分にバリが無いようにしてください。

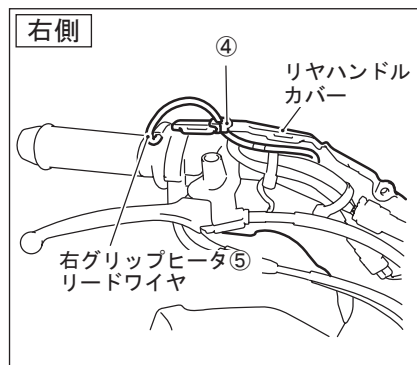


グリップヒーターリードワイヤの接続

1. イラストのようにグリップヒーターリードワイヤ①を通し、車両ハーネスカプラと結線します。
2. グリップヒーターリードワイヤ①のクランプをハンドルバー前ブラケットの左後方の穴に差し込みます。



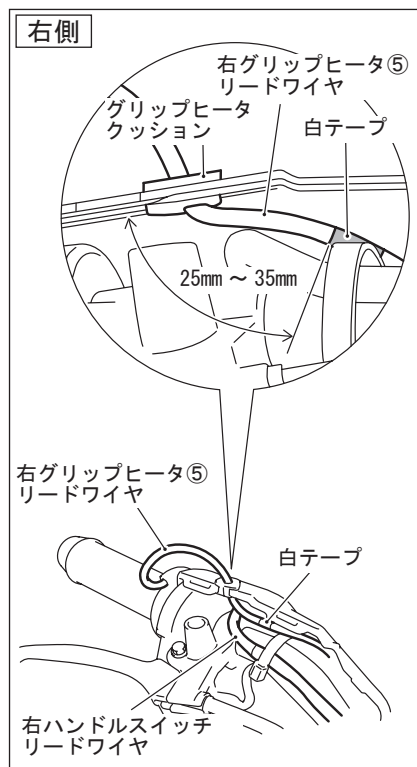
3. リヤハンドルカバーをハンドルバーに取り付けます。
4. クッション④を右グリップヒータ⑤リードワイヤに取り付け、クッション④をリヤハンドルカバーのP.12 手順1 で切り落とした箇所差し込みます。



5. ハンドルカバーから 25 ～ 35mm の位置に右グリップヒータ⑤リードワイヤの白テープ部が配置されるように長さを調整してください。



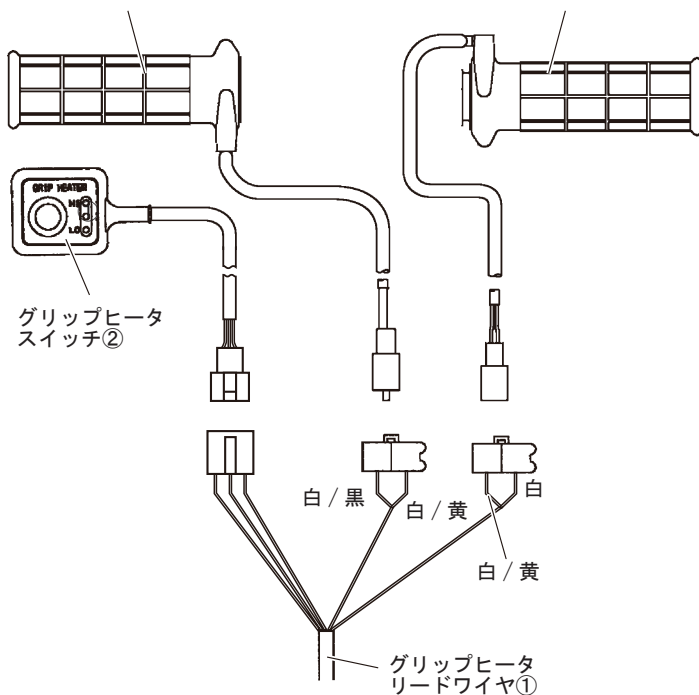
右グリップヒータ⑤リードワイヤがハンドルカバーに接触しないように取り付けてください。



- 左右のグリップヒータリードワイヤ、グリップヒータスイッチの取り付け
1. 図のように右側グリップヒータ⑤リードワイヤ、左側グリップヒータ⑥リードワイヤとグリップヒータスイッチ②のカプラを、グリップヒータスイッチリードワイヤ①のカプラに接続します。

左グリップヒータ⑥

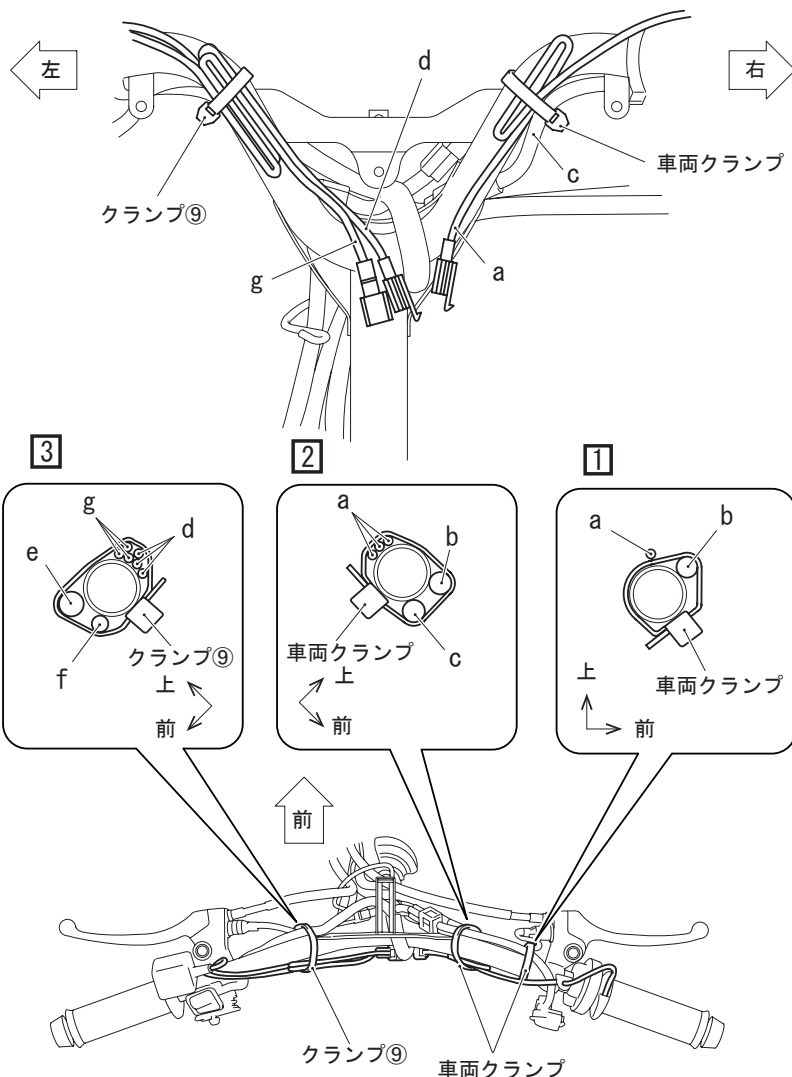
右グリップヒータ⑤



2. 図のように各リードワイヤを配索し、クランプで固定します。



- ・ 左右グリップヒータ⑤、⑥のリードワイヤに張りや、著しいたるみが無いように固定してください。
- ・ クランプ ⑨ の余り部分はニッパで切断してください。
- ・ 車両クランプのボタン部は断面図に示された方向に向けてください。



配線、ケーブル	
a.	右グリップヒータ⑤リードワイヤ
b.	右ハンドルスイッチリードワイヤ
c.	右ブレーキスイッチリードワイヤ
d.	左グリップヒータ⑥リードワイヤ
e.	左ハンドルスイッチリードワイヤ
f.	左ブレーキスイッチリードワイヤ
g.	グリップヒータスイッチ②リードワイヤ

作業内容	
①	手順 5 を参照してください。
②	a, b, c を車両クランプでハンドルバーに固定します。
③	d, e, f, g をクランプ⑨でハンドルバーに固定します。

3. 車両部品を取り外した逆の手順で取り付けます。
(UB125L サービスマニュアルを参照してください。)

	
リードワイヤをはさみこまないように注意して、フロントハンドルカバーとリヤハンドルカバーを取り付けてください。	



グリップヒータスイッチブラケットの取付け

1. ボルト⑦を左ミラーホルダに取り付けます。

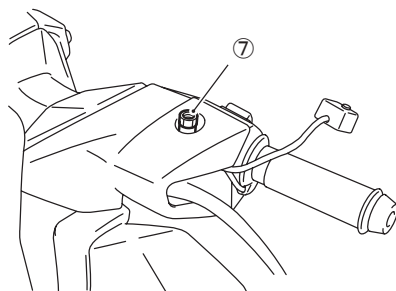


組み付け時にスイッチリード線に負荷がかかるような状態にならないようにしてください。



ボルト⑦ : 28 N・m
(2.8 kgf-m)

左側

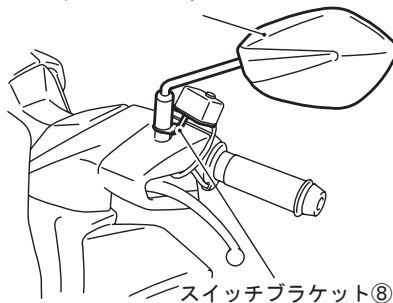


2. 図の様に左リヤビューミラーおよびグリップヒータスイッチブラケット⑧を取り付けます。



グリップヒータスイッチ②は、ハンドルバーと平行になるように取り付けてください。

左リヤビューミラー



- ・グリップヒータスイッチリードワイヤは、スイッチブラケットの後ろを通してください。
- ・左グリップヒータリードワイヤがハンドルカバーに接触しないように取り付けてください。
- ・グリップヒータスイッチリードワイヤがリアブレーキレバーに接触しないように取り付けてください。



実際の走行を行う前に、各部の取付け確認を必ず行って下さい。

機能確認、点検

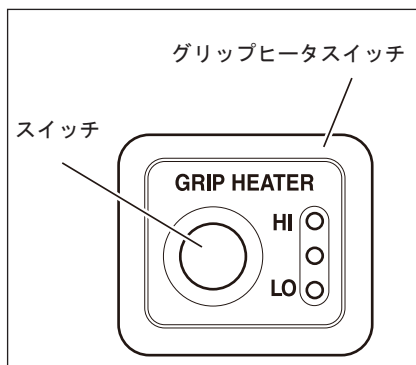
1. スロットルグリップを全開にしたとき及びハンドルを左右にきったときリードワイヤに無理な力がかかっていませんか？
2. 左側グリップヒータは確実に接着していますか？

エンジンを始動して

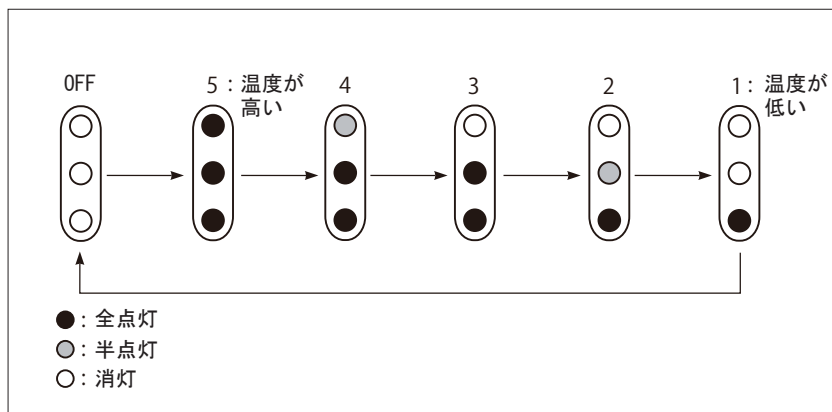
1. ハンドルを左右に切って、アイドリングの回転に変動はありませんか？
2. ヘッドランプ等の灯火器類は正しく作動しますか？
3. スイッチを押しインジケータ表示を LEVEL3 ～ LEVEL1 にして、グリップヒータの暖かさが変化しますか？

取扱いの方法

- エンジンを始動し、スイッチを押すとグリップヒータが作動し、グリップを暖めることができます。
外気温に応じて LO ～ HI の間で 5 段階に温度調整できます。



インジケータはスイッチを押すごとに次のように変化します。



⚠ 注意

- ・必ず手袋を着用してください。素手ではやけどを負うおそれがあります。
- ・外気温度が 20℃以上の時は使用しないでください。グリップヒータが過熱してやけどを負うおそれがあります。
- ・グリップの表皮が摩耗したり、損傷した場合は交換してください。感電ややけどを負うおそれがあります。



- ・グリップヒータには、バッテリー上がり防止のために、電圧検出タイプの自動スイッチが組み込まれています。自動スイッチは、エンジンアイドリング時や徐行運転中などに、エンジン回転が下がり、バッテリー電圧が下がるとインジケータが点滅します。エンジン回転が上がり、バッテリー電圧が上がると電源が入り、インジケータはもとの表示にもどります。
- ・エンジンアイドリング時や徐行運転中など、エンジン回転が下がっている場合、グリップヒータのスイッチを ON に入っても自動スイッチが ON にならない為、暖かくなりません。

グリップヒータが正常に作動しない場合は、下記項目の確認を行い、お買い上げ頂きましたスズキ販売店にご相談ください。

- ・ グリップヒータが作動しません。または調整ができません。
 1. グリップヒータスイッチインジケータが点滅していませんか？
 2. エンジンは始動していますか？
 3. グリップヒータスイッチは、LEVEL3 ⇄ LEVEL1 になっていますか？
- ・ グリップヒータ温度が低すぎます、または高すぎます。
 1. グリップヒータスイッチの LEVEL3 ⇄ LEVEL1 間を調整していますか？
 2. 温度が高い場合は、LEVEL1 または OFF にするか厚手の手袋にしてください。
- ・ グリップヒータの暖まり方が場所によって差異を感じる場合があります。
 1. 異常ではありません。
- ・ グリップヒータスイッチインジケータが点滅しています。
 1. バッテリーの電圧が下がっています。
充電するか、交換してください。
グリップヒータスイッチを OFF にしても、バッテリー電圧が下がると、インジケータが点滅します。

**取扱い上の
注意事項**

グリップヒータの故障の原因となるため、高圧洗浄機を使用しての洗車は行わないでください。